

市民満足度を高め、都市間競争をリードするための行財政の基盤を構築します。
(「流山市行財政改革実行宣言」より)

問い合わせ/行政改革推進課 ☎7150-6078

発行/流山市
編集/秘書広報課

〒270-0192 千葉県流山市平和台1-1-1 / 流山市のホームページアドレス
☎04-7158-1111 (代表) / <http://www.city.nagareyama.chiba.jp/>

行財政改革ってなんだろう？



ぎょうかく
“行革”って言葉よく耳にするけど、
市ではいったいどんなことをしているの？

“行革”、正式には「行財政改革」って言うんだ。
職員の数を減らしたり、予算を削ったり、
単なる経費節約と思われがちだけど、
そうじゃないんだよ。
一番大切なのは、市民へのサービスを
どれだけ高めることができるか。
つまり節減や効率化を進めながら、そこでできた
“余裕”を使って、仕事や課題に取り組み、
行政サービスを充実させていくことなんだ。



全国No.1!

行政運営の省コスト

自治体が1年間に行政サービスを行うのに使った費用を示す行政コスト。これを住民一人当たりになると、一体いくらになるでしょうか。これは『日経グローバル』誌が「全国市区のバランスシート調査」で紹介しているもので、流山市は全国1位(一番少ない)と発表されています。つまりもっとも低コストで行政サービスを行う市と評価されたわけです。ちなみに一番多い自治体とは、約3倍もの差がありました。



行財政改革と市民活動 市民とどんな関係があるの？

少子高齢化、環境問題など、社会を取り巻く環境が著しく変化している中で、新しい行政サービスが求められています。こうした時代にあって、市民と行政が相互の信頼関係のもとに知恵と力を出し合いながら、未来の流山市を築いていかなければなりません。

行財政改革の推進には、市民の皆さんによる地域活動や福祉活動、環境活動、NPO活動といった市民活動を積極的に進め、地域の問題解決に市民と行政が協働して取り組んでいく必要があります。

行財政改革の取り組み 行財政改革でどう変わるの？

市の財政状況は厳しく、急に良くなることはありません。しかしこれまでのやり方を続けていくことは、本当に市民が求めているサービスを提供できない状況になってしまいます。

現在、市では、新しい仕事やサービスを始めるため、役目が終わった仕事や成果の上がない仕事を見直しています。そして市民の視点に立つて公務員が担うサービスのうち、民間の活力を活用した方が良いものについては、指定管理者制度の導入、民間委託などアウトソーシングを進め、市民の皆さんに満足していただけるサービスの提供に最善の努力をしています。

新行財政改革実行プラン

市では平成17年3月に「新行財政改革実行プラン」を策定しました。「市民満足度の高い流山市」へ向けて実行する内容を具体的に掲げ、これに基づいて改革・改善に取り組んでいます。

行政評価システムの導入が改革をもたらす！

行政評価システムとは「Plan」(=改革検討)「Do」(=実施)「See」(=評価・分析)のサイクルで施策や事務事業などを展開する手法です。これまでの行政運営は、改革検討と実施の部分はあっても、「本当に市民に役立っているのか」といった「評価・分析」をあまり行ってきませんでした。「新行財政改革実行プラン」

では、「図書館情報の電子化」といった具体的な改革項目を72項目あげるとともに、すべての事務事業について定期的に評価・分析し、その結果を総合計画の策定や予算に反映させています。

また、市民満足度を測るための成果指標を設定し、毎年実施している「まちづくり達成度アンケート調査」により市民満足度の動向を把握したり、行財政改革審議会による外部評価を行うなど、有識者や市民の評価も取り入れた改革を進めています。

私たちのまちの“家計”を 具体的な数で見えてみよう!!



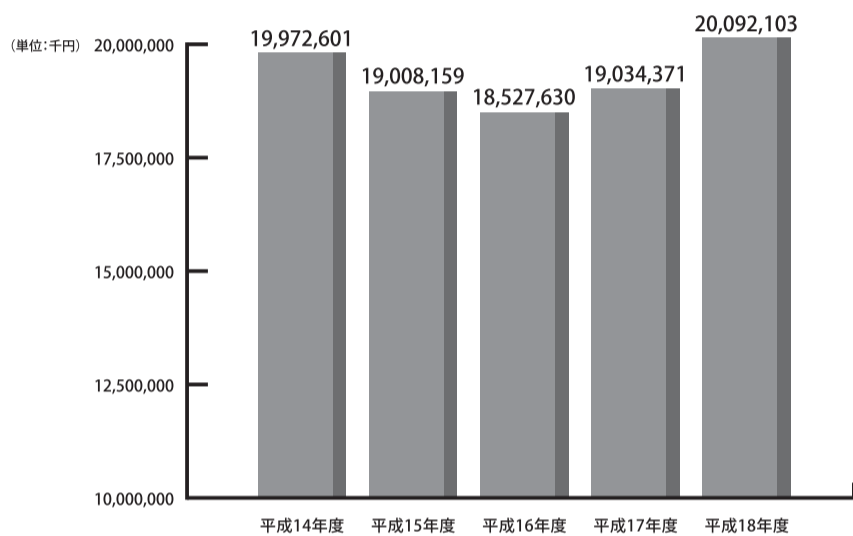
●「財政」というとちょっと堅苦しいですが、家計を見る感覚で流山市の財政を見てみましょう。

1年間の収入ってどれくらいあるの？

— 市税の収入 —

ここでは市の収入の約半分を占める「市税」について見てみます。

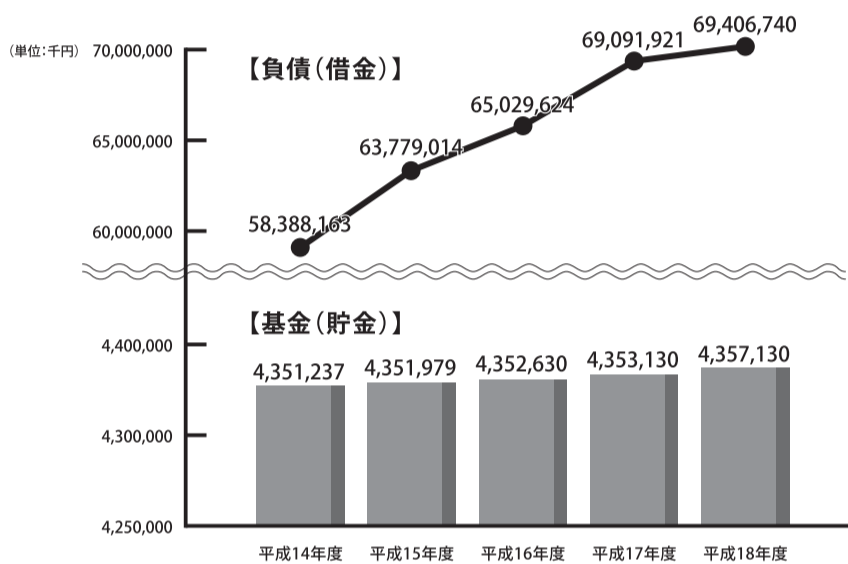
市税(市民税、固定資産税・都市計画税、軽自動車税、市たばこ税など)の収入状況は、これまで経済状況の低迷によって減少が続いてきました。ここ数年は国の三位一体改革にともなう税源移譲や税制改正による影響で収入額は増加傾向にあります。



貯金と借金はどれくらいあるの？

— 基金と負債 —

市でもいざという時の備えとして、家庭の貯金にあたる「基金」を「財政調整積立基金」として積み立てをしています。不慮の災害や社会情勢による市税の減少など、予期せぬ事態のために役立つ大切なお金。近年の厳しい財政環境にもかかわらず、少しずつ蓄えを増やしています。一方借金にあたる「負債」は、一般会計では減少しているものの、上・下水道と区画整理の特別会計でやや増加傾向にあります。



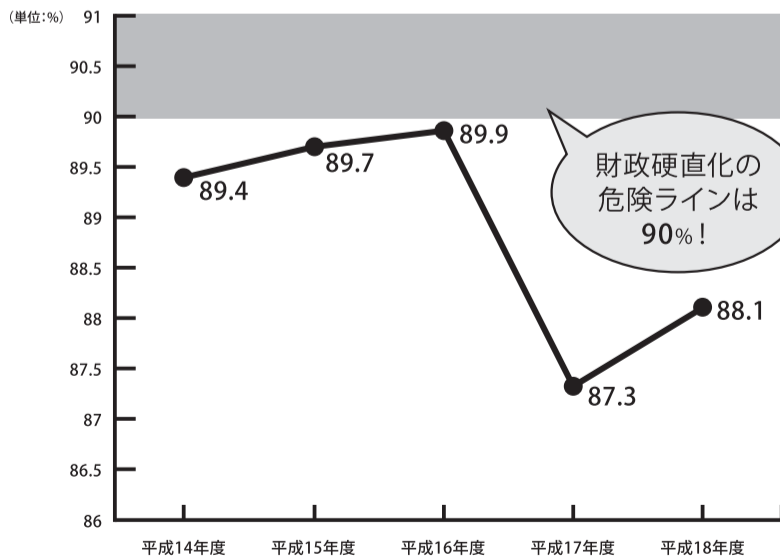
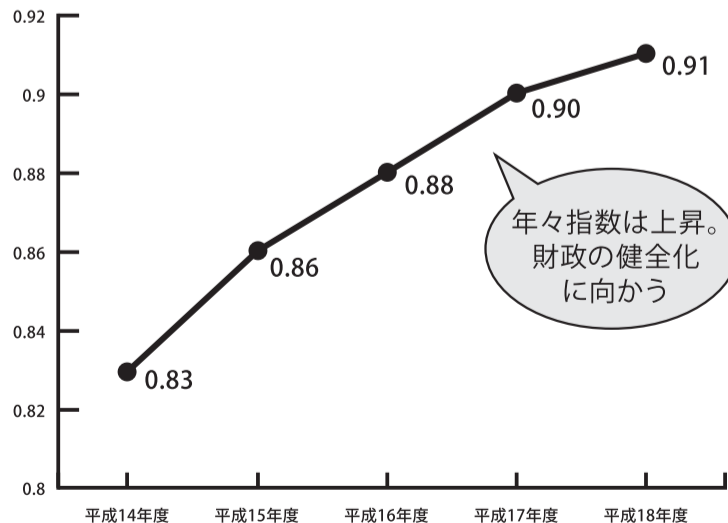
家計にはどれくらいの“余裕”があるの？

— 財政力指数 —

使途が特定されていない一般財源が豊富であれば、標準的な行政サービス水準を達成できるだけでなく、より充実した行政サービスを提供することができます。この状況を示す指標が「財政力指数」です。この数値は「1.0」に近いほど、一般財源が豊富であることを示しています。なお「1.0」を超えると国から地方交付税が交付されません。

— 経常収支比率 —

財政運営がどれくらい弾力的な対応能力を持っている評価するのが「経常収支比率」。この数値が低いほど、弾力性が大きいことを示しています。流山市は財政の硬直化(自由になる予算が少なく、新たな事業やサービスを展開することが困難になってしまうこと)の危険ラインといわれる90%は下回っていますが、比較的高い比率を示していますので、今後も継続した改善が必要です。



●近隣市のデータ

	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
野田市	0.92	0.84	0.87	0.90	0.92
我孫子市	0.87	0.89	0.91	0.92	0.94
柏市	0.93	0.95	0.94	0.97	1.00
松戸市	0.88	0.89	0.90	0.92	0.93
鎌ヶ谷市	0.73	0.74	0.75	0.77	0.78

●近隣市のデータ

	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
野田市	83.6%	85.5%	85.2%	86.7%	86.7%
我孫子市	88.2%	89.8%	94.8%	95.7%	96.3%
柏市	85.8%	85.2%	90.6%	90.4%	90.1%
松戸市	86.4%	88.9%	90.0%	89.7%	90.7%
鎌ヶ谷市	86.8%	88.5%	92.9%	94.4%	95.6%

4年間で約37億7千万円を節約!

競争入札を実施して経費節減

競争入札とは、物を買ったり、事業を委託したりする場合に、複数の契約希望業者にその金額や内容を書いた文書を提出してもらい、その中からもっとも有利な条件を出した業者との契約を結ぶ方法です。市内情報ネットワーク環境の整備やゴミ処理事業の委託、消防ポンプ車の購入など、市が行う事業は大きなものばかり。競争入札を行いこれらにかかる経費を抑えることで、大きな節減を生み出しました。

★今年度の実績!

家庭ごみの収集運搬業務については、これまで随時契約で委託。入札制度を実施した結果、単年度の委託契約が、前年度事業費の約4割にあたる1億5,300万円を減額に。

平成15年度から 18年度の削減額

どうやって
節約したの?

**人件費
17億2,100万円**

●主な項目
退職者不補充:12億2,500万円
特別職・管理職手当削減:1億5,700万円
調整手当(10%)から地域手当(8%)へ改正:
1億3,300万円 など

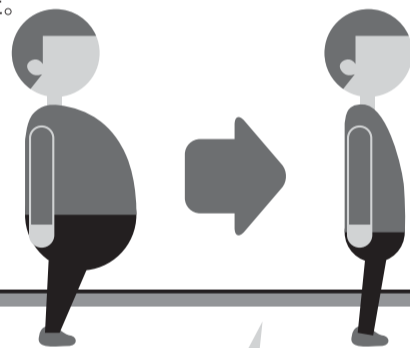
**事務事業費
20億5,100万円**

●主な項目
地域融和施設(ほっとプラザ下花輪)の
設計・仕様の見直し:5億4,000万円
一般競争入札の拡大・入札制度改革など契約の見直し:1億5,600万円
ごみ処理施設管理事業の見直し:7億1,877万円 など

**合計
37億
7,200万円**

人件費を抑える

職員が退職した場合、その職員の補充を行わなかったり、採用する職員の数を抑えたりして、人件費にかかる経費を減らしました。また、特別職の給料20%カット、住宅手当の引き下げなど、これまで支払っていた各種手当を見直し、調整をしました。なお、市議会でも市議会議員の期末手当を自ら5%カットしました。



人件費も
スリムに!

計画内容の見直しで契約額を削減

市のさまざまな事業は、市の職員だけでまかなえるものではありません。事業者と契約を結び事業を委託して行うものがたくさんあります。これらの契約金額を抑えて経費削減を行うため、事業の計画段階からの見直しを行いました。具体的には、施設を建てる時に設計の規模や仕様を実情に合わせて縮小したり、本当に必要な事業かどうか再検討したり、内部でできることは委託しないなど、さまざまな見直しを行いました。

★今年度の実績!

大型コンピュータから小型コンピュータへ

住民記録や税金の記録など、これまで大型の汎用コンピュータを利用してきましたが、業務ごとに小型サーバーを設置する方式に切り替え。大型コンピュータを使い続けた場合にかかる経費は今後5年間で約20億円。新システムの採用で、今後5年間の経費が約9億5千万円と5割以上の削減に。

経費削減

桜の植栽事業

市制施行40周年を迎えた今年、市民の憩いの場である利根運河堤に20本の桜を植栽しました。これは植栽費用の一部を負担していただく市民参加の事業。仕様の見直しなどにより、96万円の経費削減となりました。



平山准教授から 市民の皆さんへメッセージ

市と市民の「協働」によるまちづくり
これからの市政というのは、市民と自治体とのパートナーシップが不可欠です。自治体にサービスを求めるばかりではなく、ひとり暮らしのお年寄、防犯など、自分の身のまわりの問題を自分たちで考え、取り組んでいく姿勢をぜひ持ってください。こうした市民活動と自治体との「協働」でまちづくりを行うことが、豊かな流山市を築いていくのだと思います。

私は流山市の行財政改革をこころみます!
流山市の行財政改革の大きな取り組みは、「Plan、Do、See」(計画、実施、評価・分析)という行政運営のシステムを作ってきたことにあると思います。これまでの行政運営は、事業の結果や現状を把握してそれを次へ反映するということがなされてきませんでした。つまり「See」の部分がほとんどなかったわけですね。このほとんどやっつけてこなかったことをここ数年で、かなり具体的にできるようになったのは十分評価されるべき点だと思います。例えば、行政評価については、行財政改革審議会による外部評価も実施しています。また現在進んでいる人事評価制度は、職員の勤務状況を上司や部下が評価するというもので、職員の皆さんの意識も変わりつつあるのではないのでしょうか。とはいえ事業の成果や市民生活の現状を詳細に見る「See」と、その「Plan」への反映は、本格的にはこれから。現状の問題に今後はより機敏に対応して、行財政改革を進めていってほしいと思います。

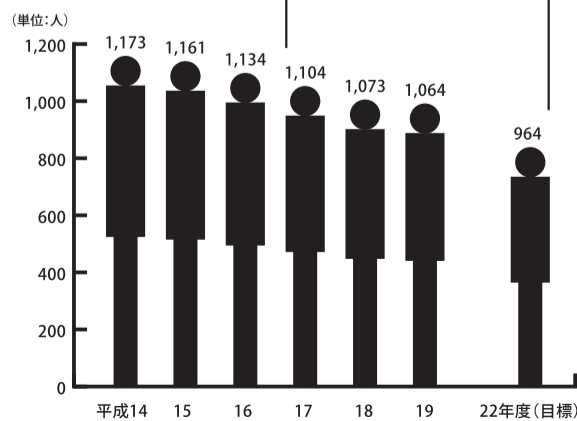
interview



江戸川大学准教授
(元流山市行財政改革審議会委員)
平山 満紀さん

職員の数も着実に削減

定員適正化計画期間
(約54億円の削減)



どこが変わった？

市民の満足度を高めること。これが行財政改革で一番にめざすところです。市ではさまざまな事業のあり方を見直し、市民にとって本当に必要なサービスとはなにか模索・検討を続けています。そのなかで新たに始まった行政サービスの一例をご紹介します。

ここが変わった！流山市の行政サービス

出張所のサービス機能を充実

● 時間延長、土曜日の利用も

駅に近く、おおたかの森ショッピングセンターの3階という利便性を持つ「流山市おおたかの森出張所」が、さらに利用しやすくなりました。今年4月から窓口サービスの時間を平日は午後7時まで延長し、土曜日も午後5時まで開いています。また各種届け出や登録、証明書の交付のほか、市税などの納付もできるようになりました。

問い合わせ／おおたかの森出張所 ☎7154-0333



子育てしやすいまちへ

● 乳幼児医療費の助成を6歳までに引き上げ

通院や入院にかかる医療費を助成する「乳幼児医療費助成」は、これまで2歳までを対象としていましたが、平成18年8月から6歳(小学校就学前)までに引き上げました。県内の医療機関であれば、窓口で健康保険証と乳幼児医療費助成受給券を提示すると、健康保険適用分について一定の自己負担金(200円)を支払うことで医療を受けることができます。なお受給券の申請・発行は市役所子ども家庭課、保健センター、市民課出張所で行っています。

問い合わせ／子ども家庭課 ☎7150-6082



図書館や公共施設を使いやすく

● インターネットで蔵書検索や図書の予約ができる

平成16年度から、これまで毎週月曜日や祝日が休館だった福祉会館や老人福祉センター、公民館を年末年始を除き年中無休としました。また、福祉会館や文化会館ホールは夜10時まで利用できます。さらに図書館も祝日を閉館し、夜8時まで開館しています。

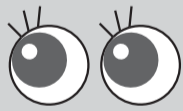
福祉会館や公民館、体育施設の予約がパソコンや携帯電話で可能になり、図書館も平成18年10月からインターネットで蔵書検索や図書の予約ができます。江戸川大学の蔵書20万冊も利用できるようになりました。

問い合わせ／中央図書館 ☎7159-4646



「気になるあの街」流山市のランキングは？

9月末に発表された「都市データパック」(東洋経済新報社刊)の2007年版によると、「街づくりを進める上で注目している都市や、目標とする都市」を調べる「気になるあの街」ランキングで、三鷹市が1位、横浜市が2位、千葉県内では我孫子市が全国4位、市川市が全国11位、そして、流山市は全国18位にランクインしました。こうした数字にも行財政改革の成果があらわれているのではないのでしょうか。



安心して暮らせる「健康都市」づくり

● 平日夜間診療がスタート

今年10月、これまでの日曜・祝日、年末年始の診療に加え、新たに平日の夜間診療もスタートしました。診療科目は内科と小児科で、時間は午後7時～9時まで(受付は午後8時30分まで)。病状によっては市が指定した第二次救急病院などを紹介します。

平日夜間・休日診療所は、保健センター(☎7154-0331)に開設されています。問い合わせ／平日夜間・休日診療所 ☎7155-3456



interview

「翌朝まで待たなくていいから安心」

初日となった10月1日にご両親といらした運藤楓太くん(5歳)は、当番で診療に当たられた流山市医師会長の町谷肇彦先生に診ていただきました。ご両親は、「翌朝まで待つのは不安だったので、夜間に診ていただけるのは心強かった」と診察を終えてほっとした表情で語ってくださいました。



「各部局長の仕事と目標」の中間達成状況を公表！

市では、各部局長がそれぞれの部局の目標とその実現へ向けた取り組みをまとめた「各部局長の仕事と目標」を策定し、課題に対して何をどうすべきかについて各部局長が公表しています。なお、この「各部局長の仕事と目標」は、市のすべての業務を対象としたものではなく、各部局長が自ら重要と判断した業務を選んだものです。4月から9月分までの中間達成状況については、12月15日から市ホームページや情報公開コーナー、市民課出張所で公開、閲覧できます。

井崎市長からのメッセージ



課題解決に向けて一緒に創意工夫を

「行革は難しく分りにくい」そんなご意見をお寄せいただくことが多いことから、行財政改革を特集しました。よく誤解されることですが行革は、それ自体が目的ではなく、市政の無駄を省き、生み出した財源を福祉や教育などの市民サービスに充てるための方法です。今年5月に発表された市民一人当たりの行政コストが、全国で最も少ない都市(日本経済新聞社)に2年連続でなったのも、より多くの税金を市民サービスの拡充にあてるため、行財政改革を断行した結果だと思えます。これからは、市政や市民の課題を、行政と市民の皆さんや企業、大学などの協働によって、切り拓いていくという発想が必要になってきます。「財源不足だからできません」ではなく、「できるようになるためには、どうしたらよいのか」を一緒に考えていく姿勢も行財政改革だと私は思っています。職員、議会そして市民の皆さんと一緒に、創意工夫しながら、より充実した流山市政を築いてまいりたいと考えています。